

Title	法學研究 第二十六卷 (昭和二十八年自一號至十二號) 總目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1953
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.26, No.12 (1953. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19531215-0069

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法學研究 第二十六卷

(昭和二十八年
自一號至十二號)

總目次

論說

マス・コミュニケーションの經濟的側面……………

——その商業性と獨占、集中化について——

經濟法の社會法的性格……………

——その生成と問題點——

舊民法と其の性格……………

リステイトメントを中心としたアメリカ判例法の課題……………

ハリーファ制について……………

取締役會の權限を繞る二三の問題……………

株主名簿の閉鎖と基準日……………

「特定ノ第三者」の新株引受權……………

アメリカ鐵道產業關係勞働立法の研究……………

アメリカの移民政策(三・完)……………

會社の目的外の行爲の效力……………

政黨と選挙區……………

——二大政黨制の確立のために小選挙區制の採用を提唱す——

論說	號數	頁	通頁	執筆
マス・コミュニケーションの經濟的側面……………	一	一	一	生田正輝
——その商業性と獨占、集中化について——				
經濟法の社會法的性格……………	一	三三	三三	正田彬
——その生成と問題點——				
舊民法と其の性格……………	二	一	七三	中村菊男
リステイトメントを中心としたアメリカ判例法の課題……………	二	一九	九一	平良
ハリーファ制について……………	二	四一	一一三	遠峰四郎
取締役會の權限を繞る二三の問題……………	三	一	一三九	津田利治
株主名簿の閉鎖と基準日……………	三	二〇	一五八	高島正夫
「特定ノ第三者」の新株引受權……………	三	三五	一七三	清水新
アメリカ鐵道產業關係勞働立法の研究……………	四	一	二三五	川田壽
アメリカの移民政策(三・完)……………	四	三一	二六五	藤原守胤
會社の目的外の行爲の效力……………	四	四三	二七七	米津昭子
政黨と選挙區……………	五	一	三二三	藤原守胤

ロシア王の宗敎改革と申命記	五	三七	石井良博
漁村の人口問題(試論)	六	一	米山桂三
——千葉縣九十九里濱沿岸漁村を中心として——			

The Meiji Restoration and the Constitutional

Development of Japan 1868—1871.....六 卷末より 四六八 G. M. Beckmann

李立三コース問題の一考察(一)(二・完)	六	九七	石川忠雄
ロベスピエール「憲法の擁護者」	七	三	鈴木泰平
マス・コミュニケーションに關する政治的對策	八	一	生田正輝
株式申込證據金領收證の法的性格	八	二	高鳥正夫
我が國地方制の變遷について	八	四	金子芳雄
公共の福祉と勞働基本權	九	一	峯村光郎
——スト規制の限界についての法理——			

英米刑法における故意、過失	九	一	青柳文雄
明治二十三年民法(舊民法)における戸主權(一)	十	一	手塚豐
——その生成と性格——			

自由裁量處分に對する判決	十	三	田口精一
代表制に關する若干の考察	十	五	大山正武
英米法における制定法解釋と先例	十一	一	平良
エリザベス女王の治世とフーカーの政治思想(二・完)	十一	三	伊藤政寛
——長命君主論 三——			

いわゆる繼續的債權(契約)關係の一考察	十二	一	田中實
——とくに解約の問題を中心として——			

ニコライ・ベストゥージェフについて（試論）	十二	三三	九〇三	中澤精次郎
——あるデカプリストの思想——				

資料

明治初年の死刑數	一	六〇	六〇	手塚 豊
商法再改正に關する各界の意見	三	五〇	一八八	
商法部會報告資料・改正會社法の問題點（大隅健一郎・大森忠夫）				
株式會社法改正意見（東京商工會議所）				
商法改正要望書（日本造船工業會）				
商法中一部改正要望書（東京株式懇話會）				
新會社法に對する改正意見（關西經濟連合會）				
商法改正要望書（大阪株式事務懇談會）				
商法中緊急改正問題に關する意見（經濟團體連合會）				
商法再改正に關する意見書（慶應義塾大學法學部商法研究會）				
商法改正の要望に關する照會（法務省）				
中華人民共和國全國人民代表大會及び地方各級人民代表大會選舉法	四	六四	二九八	〔石〕及川 恒忠
ブラジル國際私法規定	五	五四	三七六	須藤 次郎
和歌山藩國律	六	三三	四二五	手塚 豊
歐洲防衛共同體を設立するための條約	七	三三	五〇一	中村 洗
ウィリアム・A・ロブソン教授編『國有産業の諸問題』（英國）の概要	九	五三	六八一	中村 惠
フィリピン民法草案中の國際私法規定	十一	五二	八四八	須藤 次郎

紹介と批評

内山正能著『國際政治學序説』……………	一	六四	六四	中澤精次郎
ジェニングス著『地方行政法論』……………	一	六六	六六	金子芳雄
日本新聞協會編、蠟山政道『新聞の自由』……………	二	五七	一二九	生田正輝
宮澤俊義、小野秀雄其他著……………	二			
サムエル・ヘンデル著『チャールズ・エヴァンズ・ヒューズと最高裁判所』……………	二	六〇	一三二	平良
山中康雄著『供託論』……………	四	七三	三〇七	小池隆一
E・H・カー著『新しい世界』……………	四	七五	三〇九	内山正熊
フェアドロス著『國際法』……………	四	八二	三一六	中村洗
峯村光郎著『臨時工』……………	五	六一	三八三	川田壽
——その實態と法律問題——				
F・フェデリチ編著『獨逸自由主義』……………	五	六三	三八五	多田眞鋤
——カントよりマンに至る政治理念の展開——				
H・C・ホウキンス著『通商條約及び協定』……………	六	六〇	四五二	前原光雄
——原則と實行——				
今泉孝太郎著『改訂新物權法論』……………	六	六一	四五三	宮崎俊行
山崎丹照著『内閣論』……………	七	六七	五三五	金子芳雄
猪木正道著『政治變動論』……………	七	七〇	五三八	多田眞鋤
K・マーティン著『ハロルド・ラスキ』……………	八	七六	六一八	伊藤政寛
平場安治著『刑法總論講義』……………	八	八〇	六二二	中谷瑾子
小池隆一著『民法概説』……………	九	七五	七〇三	今泉孝太郎
西村信雄著『繼續的保證の研究』……………	九	七六	七〇四	田中實
沼田稻次郎著『市民法と社會法』……………	十	八二	七九二	峯村光郎

中村菊男著『近代日本と福澤諭吉』	十	八三	七九三	富田正文
マルティン・ノート『「イスラエルの土師」の職務』	十一	六〇	八五六	石井良博
ハンス・ケルゼン著『國際法原理』	十一	六六	八六二	中村洗
ラザースフェルド、ベレルソン、ガアウデット『人々は如何にして大統領を選ぶか』	十二	五七	九二七	生田正輝
G・リッター著『權力思想史』	十二	六四	九三四	多田眞鋤

報告と記事

研究會記事	九二一	八六七 二六二	七一 一三七 〇八二	
-------	-----	------------	------------------	--